



発行：社会福祉法人 小渦会
鳴門シーガル病院
発行者：理事長 鎌田 啓三
住所：徳島県鳴門市瀬戸町
堂浦字阿波井57番地
電話：088-688-0011(代)
F A X：088-688-0314
U R L：http://k-seagull.jp/

かもめ便り

鳴門シーガル病院 納涼祭！

8月2日（金）午後6時から今年も恒例の納涼祭を開催致しました。当日は、瀬戸小児童、教員、堂浦婦人会のみなさん、地域の方々等、多数来院されました。各模擬店（わた菓子、フランクフルト、たこ焼き、かき氷、ゲーム等）はボランティアで四国大学、鳴門病院附属看護専門学校の学生さんにも手伝って頂きました。また、みやび連の阿波踊りでは、患者さんも参加され、職員ともに大盛況で地域のみなさんと交流を深めることができました。



四国大学 看護学部学生 精神看護学臨地実習



精神看護学
橋本茂 准教授

学生の実習は15時終了予定ですが、学生は病棟から控室に帰ってくるのが15時15分だったり、集合時間を忘れるくらい夢中になり、実習内容は充実しているようでした。ありがとうございました。



作業療法 輪投げ大会



岸浜加奈さん

今回は6名が各病棟を2回ずつ受け持ちを行う8日間の実習でした。今まで日本赤十字病院、県立中央病院、徳島市民病院等で実習を行い、精神科の実習でここにきました。シーガル病院についての印象は、海の風も気持ちよく患者さんと外へ散歩に出ましたが海や山も見えてとても気持ちよかったです。また桜の木も青々となっていて景色もいいし、とてもいい環境だなと思いました。



工藤静香さん

閉鎖病棟に行かせて頂いていたのですが実習前のイメージと今回の実習後では、違って、皆さんがやさしく話しかけて下さったり、たくさん優しい言葉をかけて頂き、私も癒されました。基本的に病棟内での作業が中心で、患者さんとコミュニケーションをとったりしていました。シーガル病院については、職員の皆さんも優しく接して下さり、とても気に掛けて下さったのが印象的でした。

事務部 宮本裕二

寒天を使ったデザートを紹介

寒天は食物繊維が豊富な食材です。この食物繊維は腸において油や糖分の吸収を妨げることから、血圧降下作用や、コレステロール低下作用があるとされています。

また、寒天は水を抱え込む作用が特に強く、この寒天ゼリーが大腸では便を柔らかく保ち、同時に腸を刺激し、自然なお通じを促してくれます。



◎フルーツポンチ

果物と寒天がシロップに包まれてほっとする味！



◎カルピスかん

カルピスの爽やかな甘みが口の中に広がります！



◎小豆寒天

程よい甘さの寒天と小豆の相性はバツグン！

管理栄養士 米田真紀

薬局から



～ 『秋の花粉症にご注意』 ～

秋になると決まって、くしゃみや鼻水などの症状に悩まされることはありませんか？もしかするとそれは、秋の花粉症の原因となる「ブタクサ」によるものかもしれません。

ブタクサは「オオブタクサ」と「ブタクサ」の2種類ありますが、写真のオオブタクサのほうがより多くの花粉をつけるため、花粉症の主な原因になっているとされています。

日本では花粉症の原因の1位はスギ、2位はイネ科、3位がブタクサですが、アメリカではブタクサが1位でその原因のほとんどを占めています。

ブタクサはもともと日本に生息しておらず、明治時代に北アメリカから運ばれてきたとされています。特に第二次大戦後に日本中にひろがったことから「マッカーサーの置き土産」と呼ばれたそうです。

花粉症の症状は薬によってある程度抑えることはできますが、花粉症を完治させることは難しいのが現状です。そのため、花粉症の症状を抑えるために出来るだけ花粉を避けることが大切です。

マスクや手洗いうがいなど花粉症に共通した対策も重要ですが、ブタクサの花粉はスギなどの木の花粉と比べると飛ぶことができる距離が短いといわれています。そのため、ブタクサを見つけたら近寄らないことがブタクサの花粉症には効果的です。

薬剤師 水上尚樹



カラオケ大会を開催しました！



病棟デイルームにて、カラオケ大会を行いました。レクレーションの恒例として過去に何度か実施しておりますが、今回は以前にも増して盛り上がる事ができました。1人で何曲か歌われる方もいて、歌っている方、聴かれています方、共に、気分転換や患者さま同士の親睦を深める事ができました。

また、カラオケ後のおやつとして用意させていただいたフルーチェとお菓子等も、好評でほとんどの方に召し上がっていただきました。

これからもこのような機会を多く持ち、続けていきたいと思っています。当日協力していただいたスタッフの皆様ありがとうございました。

看護師 吉野雅子



医事「病院の顔」

今回こちらで紹介させて頂く部署は、医療事務です。ここでは、診療費の計算・カルテの管理・診療報酬の請求など、医療に関する様々な事務を行っています。

もちろん、受付の業務を担っているのもこちらです。玄関から入って一番に患者様やお客様が会うのが受付の職員です。いわば病院の大切な「顔」といってもよいでしょう。いつも明るい笑顔とあいさつで、来院される方々を温かく丁寧にお迎えしております。

事務部 内藤賢一



医療エッセイ



～ サギは舞い降りた ～



まだ青年医師と呼ばれていた頃、香川県の国立療養所に勤務したことがある。病院の横に大きなため池があって、たくさんの渡り鳥が四季折々に飛来して僕のお目を楽しませてくれていた。

そんなある日、病院で当直していると1本の電話がかかってきた。「今、タクシーに乗っているが急におなかが痛くなってきたので診てほしい。」と言う。来院された方は50歳代の紳士然とした男性であった。受け取った名刺には「別府〇〇ホテル 総支配人」と書かれていた。ひととおり診察をしてブスコパンの筋注を提案したところ、今度は別の名刺を渡され、そこにはある岡山の医院の医師の名前とその方の直筆と思われる文言が載っていた。「患者さんは前立腺肥大があるのでブスコパンは禁忌です。ペントジンがよく効きます。」と。ブスコパンという選択肢を失って困った僕は渡りに船とばかり、その助言に従おうと思った。そして迷わずペントジンを筋注した。患者さんはすぐに楽になった様子でとても喜んでくれた。「ありがとう、先生。あなたは命の恩人です。学会とかで別府に来られた際には、ぜひ〇〇ホテルに泊まってください。せいいっぱいごちそうさせていただきます。」と笑顔で感謝の気持ちを伝えられた。事務当直の青年K君からは会計の計算がすぐにできないので後日請求書をホテルまで送りますとの説明がなされた。僕もK君も20歳代の純粋な若者であった(当時は)。「困った人の役に立ててよかったな～」とふたりで目を合わせて笑っていた。

その1週間後、地区医師会から回覧が届き、そこにはこう書かれていた。「最近、ペントジン依存の人物が出没しているので注意されたし・・・。」

K君が郵送した請求書も該当者なしとのことで病院に戻ってきた。

薬剤の依存症になると人間はここまでするのかという職業上の教訓を学んだ。

「名刺なんて誰でも勝手に作れるからそのまま信じないようにしよう。」

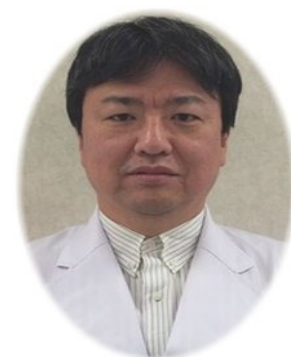
「ごちそうしますという文字通りのうまい話には乗らないようにしよう。」

社会人として世間の荒波を泳いでいくための教訓も学んだ。

病院の官舎からため池を眺めてそんなことを考えていたら、

見慣れぬ白い鳥が西の方角へ飛び去って行った。

バブル末期のまだ平和な時代の出来事であった。



医師 澤田和之

【編集後記】

『かもめ便り』第5号は、納涼祭を中心に編集を行いました。

広報委員会一同

社会福祉法人 小渦会URL



鳴門シーガル病院 交通案内

- JR鳴門駅から「北泊・堂浦行」徳島バスで堂浦(どうのうら)下車(所要時間20分)利用
- 直営渡船(所要時間2分)利用 **TEL 088-688-0011(代)**
- ◎ 渡船(無料)運航時間
午前7時30分から午後5時15分まで定時(15分～30分おきに)運航しています。

